

暑くて雨の降らない8月から一転 9月は線状降水帯が次々と発生し あちこちに被害をもたらす月となりました。台風も迷走し 雨を降らす熱帯低気圧となっても アジアの各地に記録的な降雨をもたらし続けています。そして地震の発生 思いもよらない氷河の崩壊で いまだ全容がわからない ネパール・中国の国境での土石流被害・・・これまでの死者は 1300 人以上、日本人 5 人を含む 5500 人以上が行方不明となっていると思われます。エルニーニョという気象現象がありますが、実は今年「スーパーエルニーニョ」が発生か、とも言われています。そもそもエルニーニョ現象というのは、南米のペルー沖合の太平洋の赤道周辺の中部から東部にかけて「海面水温が基準値より+0.5℃以上高い状態」が6か月以上続く現象です。エルニーニョが現れると、さまざまな異常気象が起きやすくなります。



今年は春からエルニーニョが続いているとみられていますが、今月、世界気象機関(=WMO)が発表した予測によりますと、エルニーニョが来年2月まで続く可能性が「ほぼ100%」と言われているんです。これほど高い可能性を示したのは今回が初めてということです。エルニーニョは海面水温が普段より+0.5℃ということですが、+2℃になると「スーパーエルニーニョ」と呼ばれます。気象庁が出しているエルニーニョ監視データを見てみますと、7月に+2.5℃、8月に+3.4℃、8月にしては過去最も高い数字です。

スーパーエルニーニョになると何が違うかというと、普通のエルニーニョはペルー沖合の海水温が高く西太平洋のほうが低くなり、日本が冷夏になる傾向がありますが、スーパーエルニーニョの場合だと太平洋全体の水温が高くなるため、日本は冷夏でなく暑くなります。さらに海面の水温が高いと、大気中に水分が多くなり、より大雨・豪雨になりやすいといえます。そもそもエルニーニョは地球の自然現象で、そんなに珍しい現象ではありません。だいたい4～5年に1回起こると言われていて、スーパーエルニーニョは20年に1回程度だったそうです。

ではここ10年を見てみると、2回起きています。2015年から2016年にかけて8か月間、そして2023年から2024年にかけて6か月間、基準値より2℃高くなっていました。スーパーエルニーニョが起きやすくなっているのはやはり「温暖化」が原因だそうです。実際に世界各地でスーパーエルニーニョの影響とみられる災害が起きていて、アメリカのグランドキャニオンでの土石流発生、さらに南米のペルーでの洪水・土砂崩れ発生。つまり雨の量が非常に多いことによって引き起こされた災害とみられます。

一方で、インドネシアでは雨が降らなくて乾燥してしまって森林火災が起き、ヨーロッパのドナウ川では水が干上がって渇水となりました。豪雨や洪水の地域もあれば干ばつとなっている地域もあるということで、異常気象が起きるという状態になっています。日本にもいろいろな災害が起きています。今年は九州中心に猛暑、地震があった熊本で初の40℃を超え40.3℃を観測しました。各地で発生する豪雨もスーパーエルニーニョの影響を受けていると考えられるといえます。暑さ、豪雨、台風と秋は残暑だけでなく食料にも影響が出てきそうだとすることで深刻な食糧難に直面する可能性もあるということです。

マルジン 10月のカレンダー							<申し訳ございません、立て込んでおります>	
日	月	火	水	木	金	土	マルジンは 只今、大変混みあっております。 ご依頼を頂戴しても「すぐに」というお話はお断りする場合も・・・！ 申し訳ございませんが 余裕を持ったの早目のご依頼を 今一度お願い申し上げます	
				1	2	3		
4	5	6	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29	30	31		

2026年10月第347回は～モノレール使用前に危険回避！～について

機械使用前に

⚠ 危険

- ① 機械使用前には必ず各緊急ブレーキ(バンパーによる動作含む)を作動させ、エンジンが停止することを確認してください。エンジンが停止しない場合、緊急ブレーキによる乗用台車の停止後も牽引車が動き続け、機械の破損や脱線が発生し、受傷、死亡につながる恐れがあります。
- ・モノレールの組合せを変更した場合、各緊急ブレーキ(バンパーによる動作含む)を作動させ、エンジンが停止することを確認してください。エンジンが停止しない場合、緊急ブレーキによる乗用台車の停止後も牽引車が動き続け、機械の破損や脱線が発生し、受傷、死亡につながる恐れがあります。
- ・モノレールの導入時や組み換え時の配線後には試走し、走行中の端子の抜けや断線、配線が挟まれたり引っ掛かったりしないかの確認を必ず行ってください。端子が抜けた場合や、配線が挟まれたり引っ掛かり断線した場合、緊急ブレーキでの停止時にエンジンが停止せず、緊急ブレーキによる乗用台車の停止後も牽引車が動き続け、機械の破損や脱線が発生、受傷、死亡につながる恐れがあります。

○いずれかのブレーキ作動時にエンジンが停止しない場合

配線に異常があることが考えられます。直ちに使用を停止し、販売店などへ連絡し、点検・修理を行ってください。

○配線接続時の注意

- ①端子接続後、力がかからないよう、端子手前でインシュロックを固定してください。
- ②配線は走行時レール等に引っ掛かったり、機械に挟まれたりしないような位置で多少の余裕を持たせて下さい。配線に余裕がない場合、レールの曲がり部分で引っ張られ、端子の抜けや破損、配線の断線につながる恐れがあります。



○動作確認手順

- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| OP-1緊急ブレーキ作動 | → OP-1のブレーキ機構が作動、かつけん引車のエンジンが停止すれば○ |
| OP-4緊急ブレーキ及びバンパー作動 | → OP-4のブレーキ機構が作動、かつけん引車のエンジンが停止すれば○ |